

令和7年度

動物実験に関する自己点検・評価報告書

国立大学法人京都大学

2026年7月

I. 規程及び体制等の整備状況

1. 機関内規程の整備状況

1) 評価結果 ☒ 基本指針に適合する機関内規程を整備している。 ☐ 機関内規程を整備しているが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 機関内規程を整備していない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・京都大学における動物実験の実施に関する規程（平成19年2月5日達示第25号制定）（最新改正：令和7年1月1日）
3) 評価結果の判断理由（判断理由とともに、改善すべき点があれば明記する。） 環境省の「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準」（以下「飼養保管基準」という。）と文部科学省の「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」（以下「基本指針」という。）に則って、「京都大学における動物実験の実施に関する規程」（以下「学内規程」という。）が定められており、必要に応じて最新の情報を反映させるため適宜改正して運用されている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

2. 動物実験委員会の設置状況

1) 評価結果 ☒ 基本指針に適合する動物実験委員会を設置している。 ☐ 動物実験委員会を設置しているが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 動物実験委員会を設置していない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・京都大学における動物実験の実施に関する規程（平成19年2月5日達示第25号制定） ・部局動物実験の実施に関する要項、内規等 ・全学動物実験委員会名簿 ・部局動物実験委員会名簿
3) 評価結果の判断理由（判断理由とともに、改善すべき点があれば明記する。） 飼養保管基準及び基本指針に適合した動物実験委員会が置かれている。 全学委員会及び部局委員会は、基本指針に定める3種のカテゴリーの委員によって構成されている。 全学委員会及び部局委員会の開催時には、基本指針が定める3種のカテゴリーの委員が必ず審議に参加するよう日程調整、参加方法を考慮している。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

3. 動物実験の実施体制

1) 評価結果 ■ 基本指針に適合し、動物実験の実施体制を定めている。 □ 動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。 □ 動物実験の実施体制を定めていない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 京都大学における動物実験の実施に関する規程 ・ 部局動物実験の実施に関する要項、内規等
3) 評価結果の判断理由（判断理由とともに、改善すべき点があれば明記する。） 動物実験の実施に必要な動物実験規程等及び各種申請書様式等が適正に定められている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

4. 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制

1) 評価結果 ■ 基本指針に適合し、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めている。 □ 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。 □ 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めていない。 □ 該当する動物実験を行っていないので、実施体制を定めていない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 京都大学における動物実験の実施に関する規程 ・ 部局動物実験の実施に関する要項、内規等 ・ 京都大学組換えDNA実験等安全管理規程 ・ 京都大学組換えDNA実験等安全管理規程施行細則 ・ 京都大学化学物質管理規程 ・ 京都大学における放射性同位元素等の規制に関する規程 ・ 京都大学における病原体等の管理に関する規程
3) 評価結果の判断理由（判断理由とともに、改善すべき点があれば明記する。） 安全管理に注意を要する動物実験の実施に関連する様式や手続きを整備している。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

5. 実験動物の飼養保管の体制

1) 評価結果 ■ 基本指針に適合し、飼養保管基準を遵守した、適正な飼養保管の体制である。 ☐ おおむね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。 ☐ 飼養保管施設を設置していない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 京都大学における動物実験の実施に関する規程 ・ 部局動物実験の実施に関する要項、内規、基準、マニュアル等
3) 評価結果の判断理由（判断理由とともに、改善すべき点があれば明記する。） 飼養保管施設等の設置と廃止に関する要件が規程等に定められており、確認に必要な各種書式等も適正に定められている。また、飼養保管施設には標準作業手順書として部局動物実験の実施に関する要項、内規、基準、マニュアル等が定められている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

6. その他（動物実験の実施体制において、特記すべき取組及びその点検・評価結果）

・ 部局相互で現地調査（ガバナンス等に関するヒアリング及び飼養保管施設・実験室の視察）を実施し、推奨する管理方法や注意すべき点を共有した。 ・ 動物実験計画書等の申請書類を WEB 上で申請し、審査も行うことができるシステムを一部の部局で導入開始した。令和8年度は全部局で導入する予定である。
--

Ⅱ．実施状況

1．動物実験委員会の活動状況

1) 評価結果 ☒ 基本指針に適合し、適正に機能している。 ☐ おおむね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 京都大学動物実験委員会議事要旨（令和7年7月31日） 京都大学動物実験委員会議事要旨（令和8年3月31日）
3) 評価結果の判断理由（判断理由とともに、改善すべき点があれば明記する。） 京都大学における動物実験の実施に関する規程等に基づいて、学長の諮問機関として委員会を開催し、関連事項に関して審議した。 ・動物実験の適正性に係る現地調査の実施及び結果報告について審議した。 ・WEB 申請システムの導入について共有した。 ・文部科学省の事務通知について共有した。
4) 改善の方針、達成予定時期 WEB 申請システムの全部局での導入（令和8年度）

2．動物実験の実施状況

1) 評価結果 ☒ 基本指針に適合し、適正に動物実験を実施している。 ☐ おおむね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 動物実験計画承認報告書 動物実験結果報告書 自己点検報告書（動物実験実施状況） 事故報告書
3) 評価結果の判断理由（判断理由とともに、改善すべき点があれば明記する。） 法令に適合した動物実験実施状況であることを確認した。動物実験計画書の立案、審査、承認、結果報告が適正に実施されている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

3. 安全管理に注意を要する動物実験の実施状況

1) 評価結果 ☐ 該当する動物実験を適正に実施している。 ☒ おおむね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。 ☐ 該当する動物実験を行っていない。
2) 自己点検の対象とした資料 動物実験計画承認報告書 動物実験結果報告書 自己点検報告書（動物実験実施状況） 動物実験施設飼養保管マニュアル 緊急時対応マニュアル 逸走時対応マニュアル 緊急連絡先 事故連絡票等
3) 評価結果の判断理由（判断理由とともに、改善すべき点があれば明記する。） 以下の針刺し2件、動物による咬傷6件、その他負傷4件の合計12件の事故等の報告があったため。 内訳：医学研究科5件（針刺し1件、動物による咬傷2件、その他負傷2件）、農学研究科1件（針刺し1件）、iPS細胞研究所1件（動物による咬傷1件）、野生動物研究センター1件（動物による咬傷1件）、ヒト行動進化研究センター3件（動物による咬傷1件、その他負傷2件）、高等研究院1件（動物による咬傷1件）
4) 改善の方針、達成予定時期 事故の発生が減少しないことから、改めて動物実験実施前の注意喚起を徹底し、飼養保管施設、実験室の安全を点検し、危険な箇所があれば改善する。

4. 実験動物の飼養保管状況

1) 評価結果 ☒ 基本指針に適合し、飼養保管基準を遵守した上で、適正に実施している。 ☐ おおむね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。 ☐ 飼養保管施設を設置していない。
2) 自己点検の対象とした資料 自己点検報告書（飼養保管施設管理状況） 自己点検報告書（実験室管理状況） 動物実験施設飼養保管マニュアル

緊急時対応マニュアル 逸走時対応マニュアル 緊急連絡先 事故連絡票等
3) 評価結果の判断理由（判断理由とともに、改善すべき点があれば明記する。） 法令に適合した実験動物の飼養保管状況であることを確認した。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

5. 施設等の維持管理の状況

1) 評価結果 ☒ 基本指針に適合し、飼養保管基準を遵守した上で、適正に維持管理している。 ☐ おおむね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。 ☐ 飼養保管施設を設置していない。
2) 自己点検の対象とした資料 飼養保管施設設置承認報告書 実験室設置承認報告書 自己点検報告書（飼養保管施設管理状況） 自己点検報告書（実験室管理状況）
3) 評価結果の判断理由（判断理由とともに、改善すべき点があれば明記する。） 施設の設置時に規程が求める設置基準を満たしていることを委員会が確認しており、自己点検報告書（飼養保管施設管理状況、実験室管理状況）の自己点検報告書の提出によって、適正に維持管理されていることを把握している。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

6. 教育訓練の実施状況

1) 評価結果 ☒ 基本指針に適合し、飼養保管基準を遵守した上で、適正に実施している。 ☐ おおむね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 教育訓練資料・スライド 京都大学動物実験教育訓練 e-Learning 受講履歴 京都大学動物実験教育訓練 e-Learning 受講修了証

令和7年度京都大学実験動物管理セミナー受講履歴 京都大学における動物実験教育訓練実施状況（令和7年度） （e-Learning 受講者数 1,185 人、それに加え、部局独自の講習会をヒト行動進化研究センターで8回開催 受講者数29人） 別紙1のとおり。 令和7年度京都大学実験動物管理セミナー開催 「動物実験のバイオセーフティ」、「施設・設備の衛生管理（清掃、洗浄、消毒、昆虫・野鼠対策、廃棄物処理）」、令和8年2月18日（水）、講師：国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所 安全管理研究センター第2室 滝本一広 室長、受講者数105人
3）評価結果の判断理由（判断理由とともに、改善すべき点があれば明記する。） 教育訓練の実施記録等によって基本指針に則した教育訓練が実施されていることを確認した。 また、実験動物管理者に日本実験動物学会の実験動物管理者等研修会受講を推奨した。また本学の京都大学実験動物管理セミナーを開催し、専門情報修得の機会を設けた。
4）改善の方針、達成予定時期 該当せず。

7. 自己点検・評価、情報公開

1）評価結果 ☒ 基本指針に適合し、飼養保管基準を遵守した上で、適正に実施している。 ☐ おおむね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2）自己点検の対象とした資料 京都大学動物実験に関する自己点検・評価報告書、動物実験に関する検証結果報告書、「動物実験に関する情報公開」のホームページ。 https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/rule/ethic/arcku
3）評価結果の判断理由（判断理由とともに、改善すべき点があれば明記する。） 大学のホームページに各年度の自己点検・評価報告書及び外部検証の結果報告書をはじめとして、京都大学における動物実験に関する情報を公開している。
4）改善の方針、達成予定時期 該当せず。

8. その他

(動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項及びその結果)

1) 京都大学における第6条第1号、第2号に掲げる動物実験委員会委員の構成

- ・第6条第1号に掲げる委員：教授14名、特定拠点教授1名、准教授4名
- ・第6条第2号に掲げる委員：准教授1名
- ・第6条第3号に掲げる委員：特定教授1名、主幹1名

別紙2のとおり。

2) 京都大学における第6条第4号に掲げる動物実験委員会委員の構成

- ・動物実験に関して優れた識見を有する者：教授12名、准教授4名、特定教授1名、特定拠点教授1名
- ・実験動物に関して優れた識見を有する者：教授2名
- ・その他学識経験を有する者：准教授1名、主幹1名

別紙2（役割欄）のとおり。

3) 部局動物実験委員会の構成（全部局の合計数）

京都大学における動物実験の実施に関する規程第9条による部局動物実験委員会

教授66名、特定教授1名、准教授41名、特定准教授4名、特定拠点教授2名、講師9名、助教23名、特定助教1名、特定拠点助教1名、技術職員2名、動物実験施設長1名、事務長1名、事務職員2名、特定職員1名、学外者2名 合計157名

4) 京都大学における動物実験の実施における自己点検・評価に関する報告書の集計について

別紙3のとおり。

5) 動物種ごとの飼養数・実験動物使用数の集計について

別紙4のとおり。

動物実験教育訓練実施状況（令和7年度）

部局名	全学共通 e- Learning 参加人数	左記以外の 講習会 参加人数	学共通e-Learning以外に開催した場合 の研修実施日・実施回数
文学研究科	1	0	
理学研究科	34	0	
医学研究科	462	0	
薬学研究科	148	0	
工学研究科	45	0	
農学研究科	75	0	
人間・環境学研究科	12	0	
情報学研究科	3	0	
生命科学研究科	47	0	
化学研究所	0	0	
医生物学研究所	19	0	
複合原子力科学研究所	21	0	
iPS細胞研究所	233	0	
野生動物研究センター	3	0	
ヒト行動進化研究センター	65	29	8回実施 (4/24,6/3,7/11,2/5,2/12,2/19,3/19,3/26)
総合博物館	0	0	
フィールド科学教育研究センター	3	0	
国際高等教育院	0	0	
環境安全保健機構	0	0	
高等研究院	14	0	
合計	1185	29	

京都大学動物実験委員会委員名簿

令和7年4月1日

		所 属	職 名	役割※	専門分野
1	1号	文学研究科	教授	①	実験心理学
2	2号	法学研究科	教授	③	民事法学
3	1号	理学研究科	教授	①	動物行動学、爬虫類学、自然史学
4	1号	医学研究科	教授	①	生理学、神経科学、医化学
5	1号	薬学研究科	准教授	①	薬剤学
6	1号	工学研究科	教授	①	先端医工学
7	1号	農学研究科	教授	①	生理学
8	1号	人間・環境学研究科	教授	①	運動医科学、内分泌代謝学
9	1号	情報学研究科	教授	①	生物環境情報学分野
10	1号	生命科学研究科	教授	①	内分泌代謝学
11	1号	化学研究所	教授	①	環境物質化学
12	1号	医生物学研究所	教授	②	実験動物学、分子生物学
13	1号	複合原子力科学研究所	教授	①	放射線腫瘍学、放射線生物学
14	1号	i P S細胞研究所	准教授	①	整形外科学、発生生物学
15	1号	野生動物研究センター	教授	①	比較認知科学
16	1号	総合博物館	教授	①	動物系統分類学
17	1号	フィールド科学教育研究センター	教授	①	魚類心理学
18	1号	ヒト行動進化研究センター	教授	②	ウイルス学、実験動物学
19	3号	国際高等教育院	特定教授	①	システムウイルス学
20	1号	環境安全保健機構 放射線管理部門	教授	①	放射核医薬
21	1号	高等研究院	特定拠点教授	①	応用分子細胞生物学、分子生物学
22	3号	総合研究推進本部 研究インテグリティ部門	主幹	③	研究倫理、研究規範

※①動物実験に関して優れた識見を有する者
 ②実験動物に関して優れた識見を有する者
 ③その他学識経験を有する者

動物実験の実施における自己点検・評価に関する報告書集計表（令和7年度）

	動物実験計画書の審査のまとめ						動物実験 従事者数	飼養保管 施設の設 置状況	飼養保管 施設から 独立した 実験室
	許可件数				改訂後 許可件数	不許可・ 取下げ件 数			
	新規	変更	継続	合計					
文学研究科	12	2	10	24	3	0	18	2	3
理学研究科	4	3	12	19	14	0	63	13	8
医学研究科	90	29	350	469	70	0	2,013	16	77
薬学研究科	7	10	19	36	0	0	93	5	15
工学研究科	10	3	9	22	0	0	87	5	2
農学研究科	38	12	73	123	30	0	324	14	19
人間・環境学 研究科	1	0	9	10	0	0	42	2	4
情報学研究科	2	0	8	10	0	0	30	1	1
生命科学研究科	2	4	14	20	13	0	246	9	17
化学研究所	0	0	0	0	0	0	0	1	1
医生物学研究所	26	18	75	119	33	0	226	12	35
複合原子力科学 研究所	17	0	37	54	6	0	136	2	9
iPS細胞研究所	20	72	71	163	60	8	332	3	25
野生動物研究 センター	0	0	19	19	6	0	219	2	0
総合博物館	0	0	0	0	0	0	0	0	1
フィールド科学教育研究セ ンター	1	0	5	6	0	0	43	1	1
ヒト行動進化研究センター	65	27	31	123	91	7	591	1	23
国際高等教育院	1	0	0	1	0	0	2	0	1
環境安全保健機構	11	0	15	26	5	0	72	2	3
高等研究院	0	8	4	12	0	0	60	5	4
合 計	307	188	761	1,256	331	15	4,597	96	249

主要な飼養保管施設の名称：医学研究科附属動物実験施設、医生物学研究所附属再生実験動物施設、

iPS細胞研究所附属動物実験施設、ヒト行動進化研究センター人類進化モデル研究センター

動物種ごとの飼養数（年間平均飼養数）（令和7年度）

（頭数）

動物種名	文学研究 科	理学研究 科	医学研究 科	薬学研究 科	工学研究 科	農学研究 科	人間・環境 学研究科	情報学 研究科	生命科学 研究科	化学研究 所	医生物学 研究所	複合原子 力科学研 究所	iPS細胞研 究所	野生動物 研究セン ター	総合博物 館	フィールド科 学教育研 究センター	ヒト行動進 化研究セン ター	国際高等 教育院	環境安全 保健機構	高等研究 院	合計
マウス	0	40	52,549	5,446	894	2,122	233	0	4,003	0	15,004	393	7,421	0	0	0	72	0	76	1,926	90,179
ラット	0	13	2,807	9	0	0	1	0	0	0	0	13	256	0	0	0	95	0	0	0	3,194
スナネズミ	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
モルモット	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
ハムスター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18
デグー	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
ウサギ	0	0	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28
イヌ	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
ブタ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ヒツジ	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
ヤギ	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
ウシ	0	0	0	0	0	81	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	81
サル類（類人 猿除く）	16	0	109	0	0	0	8	0	0	0	3	0	14	0	0	0	1,160	0	0	0	1,310
類人猿	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	54	0	0	14	0	0	0	68
鳥類	19	164	0	0	0	5	0	0	0	0	2	0	0	5	0	0	0	0	0	10	205
爬虫類	0	1,682	0	0	0	0	0	0	0	0	210	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,892
	43	1,899	55,502	5,455	894	2,224	242	0	4,003	0	15,237	406	7,691	59	0	0	1,341	0	76	1,936	97,008

年間平均飼養数 延べ飼養数÷365日（少数点以下切り捨て）

動物種ごとの実験動物使用数（令和7年度）

（頭数）

動物種名	文学研究科	理学研究科	医学研究科	薬学研究科	工学研究科	農学研究科	人間・環境 学研究科	情報学 研究科	生命科学 研究科	化学研究所	医生物学研 究所	複合原子力 科学研究所	iPS細胞研 究所	野生動物研 究センター	総合博物館	フィールド科 学教育研究 センター	ヒト行動進 化研究セン ター	国際高等教 育院	環境安全保 健機構	高等研究院	合計
マウス	0	202	124,972	20,616	2,670	19,304	854	0	19,481	0	42,824	2,904	39,096	0	0	0	100	0	747	2,165	275,935
ラット	0	289	5,713	108	0	6	28	0	0	0	28	258	954	0	0	0	125	0	0	0	7,509
スナネズミ	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
モルモット	0	0	34	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	34
ハムスター	0	0	50	0	0	0	0	0	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	68
フェレット	0	0	125	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	125
デグー	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
ウサギ	0	0	125	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	127
コウモリ	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
イヌ	0	0	51	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	51
ブタ	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	14
ヒツジ	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
ヤギ	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
ウシ	0	0	0	0	0	210	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	210
ガゼル	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
シカ	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
サル類（類人 猿除く）	46	0	127	0	0	0	9	1	0	0	3	0	8	0	0	0	3,486	0	0	0	3,680
類人猿	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	216	0	0	204	0	0	0	420
鳥類	27	6,000	680	0	0	270	0	0	0	0	84	0	0	450	0	0	0	4	0	50	7,565
爬虫類	0	2,097	0	0	20	0	0	1,247	0	0	195	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,559
	92	8,588	131,887	20,724	2,690	19,801	891	1,257	19,481	0	43,152	3,162	40,064	666	0	0	3,915	4	747	2,215	299,336

動物実験使用数（例）1頭(匹)を2回の実験に使用したとき2頭(匹)と計上（延べ使用数）